

2度目のマルメ研修参加をお許し頂いた機会でした。

2014年、初回の研修はスウェーデンにおける体系的な歯科医療の知識と実践が強く印象に残っていました。

今回は教育のみならず「歯科」を取り巻く制度や政府が、専門家の助言によりエビデンスに基づいて体系的に変化する。それが住民への提供される歯科医療に反映される。そんな様子を講義や施設見学から垣間見たように感じられました。

2年間の間にスコーネ県では、リスク評価と診療費用を関連付けた R2 システムによる人頭払い制度を希望する成人の数は増加を続け、最近では3～40歳代の希望者が増えている事。また、R2のデータベースとなる T4 システムはマルメ大学の実習生の診療を含め広く用いられている事。

根面う蝕への第一選択薬がサホライドである事が明らかになると、政府に働きかけ、この度スウェーデンでもサホライドが認可になる事。

このような体系的な変化がある中でも、高齢化や移民の増加による歯科的な問題が顕れてきた事。一部でフッ素を含まない歯磨剤が販売され始めた事。など、現在私達が直面する問題、将来に起こるかもしれない問題が多く提示されたように受け止めました。

講義も引用文献が2年前に比べてアップデートされており、充実していました。

「講義で隣接面う蝕が取り上げられているのはなぜか?」「根面う蝕に対するステップワイズエクスカベーションはどうなのか?」「その根面う蝕の進行抑制に、今なぜサホライドなのか?」懇親会は、ピーターズ先生、アンダース先生、ダン先生にかわるがわる質問に答えて頂いた大変贅沢な時間でした。